



発行 KOA 森林塾 (事務局)
0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路

集中コース 開催報告

『来た!! 見た!! 伐った!!』

KOA 森林塾のテーマの一つに『手遅れになりつつある人工林をどう再生するか』というものがありません。日本全国にある10000万haを超える人工林の半分以上が手入れが滞っている現在、簡便な方法で調査、分析をして間伐が必要かどうかの判定をすることは是非身に付けたスキルではありません。

そして、やはり今でも間伐に欠かせない道具はチェーンソーであり、これを思い通りに使いこなし、さらに必要なメンテナンスも行えるだけの技術も持ち合わせていなければなりません。僅か三日間でこれらすべてを身につけることは不可能に近いことですが、夏の盛り暑い日々、県外からお越

しいただいた3人の皆さんに挑戦していただきました。島崎先生が「間伐は、高さの2割程度空くようにやってください」とよく言われまして、一斉林(同一樹種、同一年齢)の場合は本数と樹高のデータがわかれば、簡単な計算で必要な間伐率を出すことができます。このあたり、調査と分析の手法は覚えていただけたでしょうか。そして伐倒とチェーンソーのメンテナンスもみっちりやっていたただけたの



簡単な道具で樹高を測るのはけっこう難しい



理屈がわかれば計算は簡単です



ではないでしょうか。伊那市横山の傾斜地でそこそこ太いアカマツやスギを、ロープやチルホールで牽引して何本も倒しました。三日目の午後はカラータイマーが点滅するへロへロ状態。奈良、三重、愛知から来て、込み入った山を見て、そしてたくさんのお木を伐りました。地元にお戻りになって、また伐倒の機会もあるかと思いますが、その時にはこのハードな日々を是非思い出してください。

集中コース

8月2~4日(金)日

一日目

8時30分 山小屋に集合。自己紹介、オリエンテーリング、森林調査に関するの講義。その後、近くのヒノキ林にて20m四方のプロットを作って測樹。

午後データ

を分析し、施業診断書を書く。その結果をもとに、プロット内で保残木の選木。

16時 終了。伊那

名物ローメンの有名店「うしお」で交流会を開催。

二日目

8時30分 集合。

横山地籍の鳩吹山中腹にて、チェーンソーの取り扱いについての注意事項説明の後、玉伐り、受け口作りの練習。続けて立木の伐倒にはいる。今年

の皆さんはあまり経験が無い、とのことでしたがなかなか筋がよい。15時 現場終了。小屋に戻り

三日目

8時30分 鳩吹山の現場で

昨日の続きの伐倒練習。午後は「ひっぱりだこ」を使った集材も。



休憩時間にもせっせと目立て。削り過ぎかも

15時30分 現場終

了。感想などお聞きして、講評。何本ものアカマツやスギを切りました。三日目は随分と上手に伐倒できるようになりました。暑い夏の盛り、お疲れ様でした。

参加者/金城さん、小林さん、鋤柄さん、スタッフ/小泉、早川、松岡

照準線で方向確認をおこなう

『 便利なフェリングレバー 』

専門コース 第2回開催報告



伐倒用小道具かもしれませぬ。このサイズの間伐をされている方にはお奨めです。

専門コース第2回開催

7月26・27日(金・土)

参加者/池上さん、小原さん、白川さん、水津さん、藤田さん、桑村さん
講師・スタッフ/川島、早川、松岡

次回以降の予定

通年コース第8・9回

8月30・31日(金・土)

間伐、集材

こちらはロープで牽引して倒す
小屋敷の現場で、前回の続きの間伐と、林内作業車を使った集材を行います。8時30分、小山屋に集合。7月になくしたチルホルルのハンドルやたかななどの道具が見つかる嬉しいな。

第10・11回
9月27・28日(金・土)
見学、枝打ち

今回の専門コースはフェリングレバーを使って何本も倒してみました。倒す木のサイズや、傾き具合にもよりますが、ヒタリと来る伐倒木に対すると、実にすんなりと、ワンタッチで倒すことができます。直径がざっと20、30cm以下のスギやカラマツなどでしたら、思った方向に倒すための一番効率の良い

” 日本林業の行方 ”



コラム

その④林業普及指導員 (Ag) の草創期

は私を含めてわずか4名で、さらに県林政課による第2次の最終面接が課せられることになっていった。
私は応募の段階から施業計画業務の継続を当然と考えていたので、2次の試験については応募をためらっていたが、同僚や上司の皆さんから国家レベルでの新規業務であることや、森連からの合格者が思いのほかに少なかったことなどを理由に、強く面接への応募を勧められた。

また当時次のような微妙な私的の事情も付きまっていた。その年の春、高齢職員を対象にした人員整理問題が持ち上がり、それを契機に県森連でも戦後初めて職員組合が結成され、整理問題について積極的に働きかけたことなどがあって初代委員長に私が選ばれた。いまだ連合国の占領下にあって、巷間では革新陣営の台頭や労働組闘争の激化などが取り沙汰され、公職に対する風評も漂っている頃であった。



最終面接では案の定長野県林務部の林政課長から組合活動に関してこつてりと詰問され、その時のやり

取りから私の資格は無いものと考えていたが、4人の候補者のうち2人が採用され、なぜか私も含まれていた。深慮の末昭和25年10月より第一期のAg生活に転向することになった。
10月1日付けで下伊那地方事務所林務課に5人の同僚と一緒に配属となったが、1期生全員は長野市に招集され、1週間単位の合宿研修を何回か課せられた。講師陣はすでに発令されていた林業専門指導員 (Sp) の面々で、関係法令や諸制度の解説、造林学・森林経理学や森林利用学 (主に架線や林道設計関係) の基礎と応用等について、実に熱心な教授をいただいた。私は農専の過程を経ているので研修の内容については実務的な素養を積むことができ、行政マンとしての心得についても理解を深められた。

麻績の1100mの森の中に住み始めて2年弱。カラマツと広葉樹の森は夏には葉を広げ、家の中は夏でも涼しく、とても快適。鳥の声、虫の音がひびき、ためぎやうさぎ、リスが時折姿を見せまです。そんな森の中の暮らしはどうにもゆつたりとしていてとても居心地がよいですね。
私は茨城の平地の真ん中で育ち、住んでいたところもいわゆる東京に通うサラリーマンの家族が住むベツドタウンでしたので、森とはほぼ無縁で、いまだ木の種類も鳥の種類もよく分かりま

リレー通信



「麻績のヤマゴモリ」
寿永 岳志

島崎 洋路

せん。森での暮らし方をよく知っているわけでもなく、そもそも体は貧弱(泣)。それでもなんだか森の中はとても居心地がよい。なんだか不思議ですね。

麻績に来る前は栃木の那須というところにおいて、仲良くなった地元の主山さんに18haの森の中にある、つぶれかけた山小屋をただで借りて、当時働いていた製材所で売り物にならない端材をいただいて直し始めた頃、大震災が起きて山小屋は壊れ、森は放射能でひどく汚染されてしまいました。広大な森を除草する術もなく、汚染された木は新にするにも気を使わなければいけないし、山菜はほとんど食べることもできません。森の中の暮らしは断念せざるを得ず、それならばと決心をして知り合いの一人もいない長野へ移ってきました。

地図を見ていて、長野市と松本市の間の辺りの山はアルプスのように険しくはなさそうだし、あっちにもこっちにもいけるのはおもしろいな、などと考えて、そのあたりを探していました。そして、たまたま見つけた麻績の家はそこそこ広い村有林に広がる別荘地の中にあり、「麻績方式」とよばれる借地権のものでした。

表示価格は200坪25年の土地の借地権が68万円。地代は年1万5000円でしかたけれど、「別荘が建っている」物件であったので、なぜやら解体費用として50万円の値引きがされ、さらに長年放置して木が生い茂り、日当たりがよくなかったため、伐採費用として5万円値引きされ、最終的に13万円となりました(安!)。とても家を買う値段とは思えない値段。そもそも家が建っているか

にしなければならぬため、事情があつて建物が残ってしまつていてため解体費用が値引き、とのこと。そういうこともあるんですね。

そんなご縁で貧乏人の私にも家を買えてしまいました。麻績の森の中に住み着くことになりました。しかし、11月に引越してきてまず直面したのが冬の寒さと雪。昔よりだいがやわらいだそうですけれど、気温は氷点下20度まで下がり、雪も50cmぐらいいはつと積もります。断熱材のない夏用の別荘は極寒。なにしろ柱の両側に3mmぐらいの薄いベニヤ板がはつてあり、外側にトタンがあるだけで、断熱材は何一つ入っていません(泣)。急遽、製材所でもらつてきた壁材と床材、買ってきた断熱材で断熱して、だいが改善されたものの、小さな灯油ストーブでは数ヶ月間は家の中は零下。冷凍庫での生活ですね。水道もトイレもお風呂もばりばりに凍ってしまいます。かといって凍結防止ヒーターをつければ電気代がうなぎのぼり。車もFFの二輪駆動だったので坂道をあがれず(涙)。

1階の天井をぶちぬき、2階まで煙突を伸ばしたことで、全館暖房?状態になり、今年の冬はだいぶ暖かく過ごすごうことができました。車も冬の間に別荘地を離れる方の軽トラを借りることができ何とか過ごすことができました。

また春には、別荘地のある村有林は補助金や森林税を使つて冬の間に間伐がされているのですが、業者さんに頼むと薪ストーブ用に無償で大量の材木をいただけることになりました。目下、薪作りに励んでいるところで

夏は涼しくクーラーが要らない標高1100mの森。住まいは前述のように格安だったので費用はほとんどかかっていないし、食べるものもご近所さんがいろいろ余つたのをくれたりします。もちろんゆくゆくは食べるものも作りたいたいですけどね。村には遊休農地がたくさんありますから。

そして、今年は新材がただでもらえたので去年いれた薪ストーブで暖房、引越してきたときにいれた薪と灯油の兼用風呂がまを薪で焚いて、最近研究中のロケットストーブとTLEDストーブで調理ができれば、ガス代、灯油代はかなり減らせそうです。あとは山を降りるのにかかるガソリン代がどう

かなれば…。周りには森がたくさんあるのだし、薪も毎年無償で得られれば…。

そんなことを考えていたときにでてきたのが森林塾。自分で切れるのなら別荘地のある村有林の間伐を請け負つて、燃料や建築材を確保、ちよいとお金が稼げれば、仕事をしに山を降りなくても済むわけで、ガソリン代もかからないというものです。そこそこ広い別荘地は端まで間伐が終わる頃には始めの場所には広葉樹が茂つていて半永久的に燃料が確保できるかも?日本の森は小さな面積で区分けがされていて大規模な施業が難しいとか、大規模にやらないと補助金が出なくなつたとか言われてますけれど、別荘地のある森は十分広く、すべて村有林なので村との交渉さえうまくいけば比較的やりやすそうです。

涼しい森の中でのおんぶりな半自給的なくらし。そんな「ヤマコモリ」な暮らしを夢見て森林塾で学んでいます。空き家も遊休農地も間伐が必要な森もありあまるほどあるので、お金に頼らない優しい暮らしを目指す仲間が麻績の森にぜひ集まってきました。欲しいですね。

さりげなく「森林塾通信のリリース通信原稿依頼」というメールが入っていました。筆不精の私にとってかなりの重荷でしたが、とりあえず了解のメールを送信し、いろいろ思いを回らしてはみましたが一向に書く段に至らず、気がついたら締め切り間近となっていました。

実は、今日は、私の故郷、伊那市高遠町(私の生まれた頃は、長野県上伊那郡藤澤村でしたが、合併を繰り返して現在伊那市になった)市最北端の集落です(で土手の草刈をする予定でしたが、朝起きてみると雨でしたので、急遽、予定変更し居住地の伊那市山寺の自宅に戻り、パソコンを打ち始めたというわけです)。

リリース通信



山・森林って面白そう
守屋 雄介



更地に返す時に

2年目となった去年の暮れにはご近所さんとも仲良くなり、使わなくなった薪ストーブをもらいうけ、自分で設置することができました。

とりあえず、自己紹介から始めたいと思います。昭和22年生れの65歳、所謂団塊の世代の一人です。これからの農



山村を考えるうえでこの「団塊の世代」を注視していくことが大切だと自分では思っています。私は、子供のころから、父の勤務の都合で、伊那市の中心部で生活していましたが、農繁期は故郷に帰り、田植え、稲刈り、草取り等農作業の手伝いをさせられていました。その間近所の仲間と共に山野を駆け回っていました。私も多々ベビーブーマーは小学校入学から、様々な問題を世の中に投げかけてきました。入学したら教室が不足しており1クラス50人のすし詰め、猛烈な受験競争、大学は学園紛争で大荒れでした。それでも就職に関しては、当時高度成長時代でしたので今の状況とは大分違って、大都会の企業へ吸収されていきました。それこそ、日本の若者のほとんどが、地方、農山村から怒涛の如く太平洋ベルト地帯の企

業に流れ込んでいったわけですが、その影響で、私の故郷も私達の世代以下の若者が消えてしまったわけでは、大学卒業後、縁あって信州を営業基盤とする地方銀行に就職することになり、長野県に戻ってきました。仕事では、県内各地の支店、本店等で様々な業界の皆様とお付き合いさせて頂き、多くの勉強をさせて頂きました。地方銀行の取引先は商工業関連のお客様が主体ですが、平成10年に木曾の上松支店勤務となり、私としては初めて林業関連のお客様との取引を経験することになりました。木曾上松町は日本一のヒノキの集散地であるため、木曾五木を覚えることから、林業用語の習得、原木市場・製品市場の見学など刺激的な毎日でしたが、最も驚いたのは、商売の思考スパンの長さでした。銀

らい、運転資金では通常1ヶ月から6ヶ月です。一方木曾ヒノキの方は豊臣秀吉の木曾の木材資源の高い評価に始まり、江戸時代の城下町繁栄と木材の大量伐出による木曾の山の荒廃、尾張藩による「木一本、首一つ」という厳しい保護政策による今日の木曾木材の価値形成。なんとも大変なことだと溜息をついたものです。その木曾の山にも様々な問題があることを知りヒントを探していたとき、本屋で島崎先生の著書「山造り承ります」に出会いました。

私には故郷に、耕作すべき田畑と山林があるので、耕作・管理放棄し転勤族として渡り歩いていたのです。勿論、心のなかでは、何とかしなくてはと思いつながらですが、退職間際に、農機具販売会社の店長さんから、「守屋さん、買っただらこの位のトラクターだね。」「守屋さん、当店はこの管理機、日本で一番売ったんですよ。守屋さんと同年代の人が突然来て、現金で買っただけよ。」それを聞いて思いました。団塊の世代が動き始めた。私のまわりには、私と同じ悩みを持った人がたくさんいます。先祖伝来の「家・田畑・山林」をどうするか、過疎化、限界集落問題です。KOA森林塾で勉強すれば

よい人が大勢いることは間違いないと思います。もとも地方出身者がリターンできるかどうかは、都会で結婚した配偶者に決定権はあるようですが。さて、私は結局トラクターを買いませんでした。それは、故郷が山村で農地は棚田、山の斜面でトラクターではとても経済的に合わないからです。あるとき、福岡正信著「わら一本の革命」に出会い、「自然農法」という言葉を知りました。関連する本を購入し読み進むうちに、自然農、自然栽培、不耕起栽培、循環農法、有機農業、慣行農業など農業の世界にもいろいろな考え方があり、自分が置かれた状況など考え、経済的に合わない農機具を使わずにやろうと決心し、3年前から、耕作放棄地の再生を始めました。自称「すくなし百姓」で、不耕起栽培にて試行錯誤しております。「すくなし」は長野県の方言で怠け者、ものぐさ、気力のない人、横着者といった意味で使われています。

幸い、私の場合、配偶者の理解も得られ、共に汗を流してくれており、農地として再生させたいところについては一応目処がつかしました。次は、山と山際の植林した農地です。

森林塾も既に7回、間伐も実施され佳境に入ってきました。最初はとうなるか心配でしたが、植物分類で木に対する興味が大きい湧き、各地での森林見学で山に入るのが億劫でなくなり、前々からこの講座でさらに、前向きに楽しく森林とかわわりを持てるよう受講したいと思っています。

最後に、私の故郷について宣伝させていただきます。伊那市高遠町藤澤の片倉という集落です。諏訪大社上社の御神体である守屋山の南麓にあり、私の家のあるところが標高1000mです。守屋山は標高1650m、頂上に立つと眼下に諏訪湖、その向こうには美ヶ原や北アルプス、ぐりりと見返すと霧ヶ峰、蓼科山、八ヶ岳、南アルプス、中央アルプスと展望抜群の人気の山です。山の麓に、物部守屋大連を祭った守屋神社があり、守屋山の頂にはその奥宮があります。今井野菊著「神々の里 古代諏訪物語」には、その昔、仏教をめぐる物部氏と蘇我氏の対立に敗れた物部守屋の子孫は美濃の国に入り、次男弟君は家臣に守られて神州の国諏訪へのがれて来て、守屋山の南の麓、古屋敷(現在守屋神社横に地名がある)に隠れ住んだとの伝承がある、と記されています。

また守屋山は、南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク内にあり、日本列島の核といえる不思議な山です。山頂に登ると、守屋山の麓、杖突峠北で中央構造線と糸魚川 静岡構造線が交わっているのがよくわかります。また守屋累層と名づけられた守屋山山腹の地層からは2200万年前の力キ、シジミ、ハマグリなどの化石が産出します。地質学の世界でも貴重な山だそう。機会がありましたら、ぜひ守屋山に挑戦してください。

おわりに
爽やかなはずの夏の信州、伊那界限が立秋を過ぎても連日の猛暑日。本当に今年は大変で、異常だと思つていますが、でもこれから毎年夏はこうなのでしょうか。週末に半月ぶりの雨が降って、少し涼しくなりまして、ようやくぐっすり寝られるように。でも、白菜の種を蒔きそびれました



年 5 投資 設備 画は、 計 金繰 画、資 金計 考す の思 行員 考す 屋さん、 日本で一番 守屋さんと 然来て、 金計よ。それを 画、団塊の ぞ。私のま じ悩みを持 います。先 田畑・山林 過疎化、限 過疎化、限 過疎化、限

年 5 投資 設備 画は、 計 金繰 画、資 金計 考す の思 行員 考す 屋さん、 日本で一番 守屋さんと 然来て、 金計よ。それを 画、団塊の ぞ。私のま じ悩みを持 います。先 田畑・山林 過疎化、限 過疎化、限 過疎化、限

年 5 投資 設備 画は、 計 金繰 画、資 金計 考す の思 行員 考す 屋さん、 日本で一番 守屋さんと 然来て、 金計よ。それを 画、団塊の ぞ。私のま じ悩みを持 います。先 田畑・山林 過疎化、限 過疎化、限 過疎化、限

投稿大歓迎。ご意見ご質問は 早川・松岡(事務局)まで。 TEL 0265-70-7065 FAX 0265-70-7994 E-mail: mi-matsuoka@koanet.co.jp ki-hayakawa@koanet.co.jp 携帯:090-4463-0062(催催日) URL http://www.koanet.co.jp